

令和7年度 浜松医科大学数理データサイエンスプログラム自己評価

令和8年5月20日

次世代創造医工情報教育センター運営委員会

評価の視点	自己評価
プログラムの履修・修得状況	<p>医学科においては「データサイエンス」「数理科学Ⅰ」、看護学科では「保健統計学」が本プログラムを構成する科目となっている。全ての科目が必修科目として設定されており、対象学年全ての学生が履修することとなっている。</p> <p>プログラムの修了状況は医学科109人/109人、看護学科66人/66人であり、全ての学生が修了している。</p>
学修成果	<p>授業評価アンケートの「学習目標の達成」に関する項目では、5点満点中、「データサイエンス」が4.34、「数理科学Ⅰ」が4.41、「保健統計学」が3.86という結果であった。令和6年度の結果（データサイエンス：4.50、数理科学：4.68、保健統計学：3.49）と比較すると、「データサイエンス」は向上したものの、「保健統計学」は依然として他の科目より低く、講義内容の見直し等を検討する必要がある。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>「授業の満足度」および「授業内容の理解」に関する評価では、「データサイエンス」および「数理科学Ⅰ」はいずれも5点満点中4点以上と良好な結果が得られている。一方で、「保健統計学」はいずれの項目も3点台と、他の科目と比較して評価がやや低くなっている。このため、講義内容の改善や、学生の理解を深めるためのフォローアップ体制の構築が次年度以降の課題である。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本プログラムを構成する全ての科目が必修科目として設定されており、対象学年全ての学生が履修することとなっている。</p> <p>また、学生の授業評価アンケート結果を次年度以降の授業内容の参考として、後輩等他の学生が受講しやすい授業としている。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本プログラムを構成する全ての科目が必修科目として設定されており、対象学年全ての学生が履修することとなっている。</p> <p>また、当プログラムへの取組について、次世代創造医工情報教育センターのHPで学生に周知している。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>卒業生は医療業務に携わる者がほとんどであり、本学附属病院所属の現場の医師・看護師の意見を反映させた、医療現場を踏まえたプログラムとしている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>医療現場における数理・データサイエンス・AI活用の重要性を周知するとともに、最先端の事例を取り上げることで学生の興味・関心を引くよう工夫している。アンケートの「興味関心が増したか」の項目でも、各科目でおおむね良好な評価を得ている。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>動画教材を多数活用し、数理・データサイエンス・AI教育の基本部分の補足となるよう考慮している。また、授業評価アンケートを分析し、学生の理解が不十分であった部分については、次年度以降の課題として講義内容の改善を実施していく。</p>